



田端智子さんは、飯山市で北信ローカルのライターとして活動している。田端さんは 35 歳の時に「自然豊かな地で育児をしたい」という思いからご家族で長野県へ移住した。移住によって、自分たちで選んだ人生に積極的になったと語る。その後、通信制高校に勤務し、多く子どもたちが心の問題を抱えていることに気づいた。そこで子どもたちと向き合うためにあえて 39 歳で通信制高校を退職し、公立小学校の教員となる。自己肯定感の低い子どもたちに自信を持たせたいと考えたが、なかなかうまくいかず今度は手相を学んだ。もともとは子どもたちのために始めた手相であったが、保護者など大人たちも田端さんのもとを訪れるようになった。年齢に関係なく、誰もが自分に自信がないことを学んだという。その後、田端さんはご友人の家が火事に遭ったことをきっかけに損害保険募集人になり、苦手な数字・パソコン・組織に向き合った。現在は地元の新聞ライターとして個人では会いに行けない人たちから、様々な人生のヒントを得ているという。

今後の展望として、49 歳で本を商業出版し 50 歳で本屋大賞を取り、実績と信用を築きたいと考えている。その後、コインランドリーを経営して生活費と旅費を確保し、新しい知識を得るために 51 歳で日本中を旅して、最終的にはトラベルライターとして日本中の素晴らしい人々にインタビューするという夢を抱いている。

田端さんは行動計画を紙に書くことで、将来の目標を明確にし、実現可能になっていくと考えている。様々な人生経験の結晶ともいえる「自分に限界を決めない」、「夢は通過点の一つに設定」という言葉は、まさに田端さんの座右の銘といえるだろう。